

## 巻頭言 ー副院長就任に際してー



<内科>

池田 裕一 教授

2024年6月に昭和大学横浜市北部病院の副院長に就任いたしました池田裕一です。私は1995年に昭和大学医学部を卒業し、以来、昭和大学藤が丘病院および横浜市北部病院において小児科の診療と研究に従事してまいりました。専門は小児腎臓と小児泌尿器疾患です。学位は造血幹細胞（ぞうけっかんさいぼう）の培養（ばいよう）に関する研究で取得し、留学先では胎盤組織からの造血幹細胞の分離と培養について学び、これらの経験を基に、医療現場での診療のみならず、研究活動にも力を注いでまいりました。私が医師としてのキャリアをスタートさせたのは、昭和大学藤が丘病院の小児科です。その後、神奈川県立こども医療センター 感染免疫・腎内科においてシニアレジデントとしての経験を積み、ここで小児の腎・泌尿器疾患および感染症対応に深く携わることになりました。

2008年には米国カリフォルニア大学の Children's Hospital Oakland Research Institute にて客員研究員として研究活動を行い、国際的な視点を養い、帰国後は昭和大学藤が丘病院に戻り、2014年に准教授、2018年に小児科診療科長に就任し、診療科の運営に携わりました。そして、2019年からは昭和大学横浜市北部病院のこどもセンター長および小児科診療科長として、横浜市北部地域の小児医療の発展に尽力してまいりました。2020年には昭和大学医学部小児科学講座の教授に就任し、教育と研究の両立を図りながら、多くの後進の育成にも努めております。

私の専門分野である小児腎臓疾患と小児泌尿器疾患は、診断から治療まで一貫したアプローチが求められる領域です。特に排尿障害や尿路感染症など、日常生活に直結する問題を抱える患者さんに対しては、対話を通じて最適な治療法を提供できるよう努めてまいりました。院内感染対策においては、\*インфекションコントロールドクター（ICD）を制度創立早期に取得し、藤が丘病院および横浜市北部病院で感染管理室長として、院内感染対策に尽力してきました。感染症のまん延を防ぐための取り組みは、病院全体の安全を守る重要な役割を果たしており、今後も一層努力を続けてまいります。

昭和大学横浜市北部病院は、地域医療の中心的存在として、多くの患者さんに質の高い医療を提供してきました。私が副院長としての責任を担うことになり、大変な重責であると同時に、大きなやりがいを感じております。当院の理念である「常に心のこもった病院でありつづける、無事故の病院になる、現在のぞみうる最高の医療をおこなう」を念頭に置き、医療の質と安全性を追求し続けてまいります。

今後も昭和大学横浜市北部病院の発展と、地域医療の向上に向けて全力を尽くしてまいります。皆様のご支援とご協力を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

\*医療機関内で感染症を制御するための対策を行う医師などの医療従事者



P1. 【巻頭言】副院長就任に際して

P2～3. 【医学講座コーナー】脱水・熱中症

P4. 【患者さんからのご意見・ご要望】・【編集後記】

# 医学講座コーナー ～脱水・熱中症～

## 『脱水』とは？

<内科 講師 山本真寛>

『**体液（水分と塩分などの電解質）を失うこと**』です！

私たちのからだの60%は水分です。この水分は体液と呼ばれ、体温の調節、栄養素や酸素の供給、老廃物の排泄などのからだにとって非常に重要な役割を担ってくれています。

この体液が失われると、口渇感（こうかつかん）、体重減少、尿や発汗の減少が出現します。

体液量が少なくなると脳や筋肉などに症状が出るようになります。

また、体液量が低下し血液の濃度が高くなると、血のかたまり（血栓）ができやすくなり、その血栓（けっせん）が血管につまることで脳梗塞や心筋梗塞などを起こす危険性が高くなります。



## 『かくれ脱水』とは？

『**脱水症になる手前の状態**』のことです

「かくれ脱水」はそれほど目立った症状はありませんが、夏バテや二日酔いのような症状がおこります。高齢者は水分を控えがちです。また、水分不足を自覚していないことも多いため、「かくれ脱水」を起こしやすくなります。

- 爪をおしたあと、色が白色からピンク色に戻るまで3秒以上かかる
- 手の甲をつまみあげた後3秒以上戻らない
- 口の中が乾燥している ・舌の表面に亀裂がある
- 舌が白いものにおおわれている ・体重が減少
- 皮膚に張りが無い ・手足が冷たくなっている
- 血圧が低い ・脈拍が速い ・微熱が続く



☞このような所見が見られたら脱水のサインです！！

## 『熱中症』とは？

『気温が高い環境で生じる障害』の総称です。

体内の水分や塩分などのバランスが崩れ、体温の調節ができなくなり、体温の上昇、めまい、倦怠感（けんたいかん）、けいれんや意識障害などの症状が起こります。最悪の場合死に至る危険もあります。熱中症の背景には脱水症が潜んでいます。脱水症を予防することが熱中症を予防するうえで大切になります。



## 『脱水症・熱中症の予防と対策』

のどが渇く前からこまめな水分と塩分を補給する事が大切です。

もし脱水症・熱中症が疑われたら、

- ◇直射日光を避け、クーラーや扇風機などがある涼しい場所に避難しましょう
- ◇首や脇の下、足のつけ根に水をかけたり氷を当てたり、体を冷やしましょう
- ◇水分を補給しましょう（緑茶やウーロン茶には利尿作用があるため注意）

症状が改善しない場合は医療機関を受診しましょう。

自力で水が飲めない、意識がない場合は、すぐに救急車を呼びましょう。

## 【お知らせ】西棟の外壁修繕工事が始まります



当院が開院してから、約20年経ったこの折、病院の装いを新たにすべく、壁面の工事を行う運びとなりました。病院の顔ともなる外壁を次の10年、20年に向けて、お化粧直しさせていただきます。

工事の期間、施工音やにおいなど、皆様にはご迷惑をおかけいたしますが、何卒、ご理解とご協力をお願いいたします。

施工場所：西棟低層階

施工期間：令和6年6月24日(月)～令和7年1月31日(金)（予定）

時間帯：8時00分～17時00分

工事概要：足場設置・撤去、洗浄・コーティング作業、防水・塗装作業

注意事項：①期間中は騒音・振動が発生する場合があります。

②工事期間中は施工面に足場を設置します。

③天候により、工期が延期する場合がございます。



## 患者さんからのご意見・ご要望

ご意見・ご要望	回答・改善等
<p>先日開催された春季市民公開講座に参加しなかったのですが、仕事で行けませんでした。</p> <p>その時の様子を、アーカイブもしくはYouTube等で配信してください。</p> <p>主治医の先生のお話を是非お聞きしたいです。</p>	<p>ご意見ありがとうございます。</p> <p>市民公開講座は、これまでのウェブ講演を含め、当院ホームページにてアーカイブ動画を公開しております。</p> <p>5月11日に開催した春季市民公開講座についても公開いたしましたので、ぜひご覧ください。</p> <p>また、市民公開講座は年に2回開催しており、次回は10月頃を予定しております。</p> <p>皆様のご参加を心よりお待ちしております。</p> <p>(回答部署：管理課)</p>
<p>入院前のPCR検査を、そろそろ無くしてほしいです。</p>	<p>ご意見ありがとうございます。</p> <p>新型コロナウイルス感染症は5類に移行しましたが、感染力は依然として変わっておりません。無症状でも検査をしたことで感染が判明(陽性)しております。</p> <p>新規感染者も確認されており、院内感染防止の観点からも現時点での入院前PCR検査の廃止は考えておりません。</p> <p>今後も、感染症の流行状況に応じて検討してまいりますので、ご理解とご協力の程よろしくお願いいたします。</p> <p>(回答部署：感染管理室)</p>

## 編集後記

8月の夏の暑い時期がまだ続きます。夏は花火、プールや海、たくさん楽しめるイベントがあります。それに伴い、夏の皮膚トラブルもたくさんあります。あせも、虫刺され、紫外線による皮膚炎など様々な原因があります。それらを予防する方法はあり、汗をかいたあとにそのまま放置しない、紫外線対策をする、虫よけスプレーをしておくことなど自身で気をつけておくことも可能です。紫外線対策の方法は、日焼け止めを塗る以外に日傘をさすという方法もあります。

私は、暑い日は特にぐったりしてしまわないように可愛い気分のあがる日傘をさして出勤しております。紫外線対策まだまだ必要です、みなさまも自分のお気に入りの日傘をさしてお出かけしましょう！！

(皮膚科 助教 須永 知里)



北部病院だより 第194号(2024年8月1日発行)

発行責任者 坂下 暁子(昭和大学横浜市北部病院長)

編集責任者 緒方 浩頭(広報委員会委員長)

発行 昭和大学横浜市北部病院

〒224-8503 横浜市都筑区茅ヶ崎中央 35-1

電話 045-949-7000(代表)

URL：<https://www.showa-u.ac.jp/SUHY/>

北部病院ホームページにて最新・過去の『病院だより』がご覧いただけます。